

令和 5 年(2023 年)11 月 01 日現在

第 24 回日本訪問リハビリテーション協会学術大会 in 山形
趣意書



大会テーマ
「訪問リハビリテーションの未来」
～地域ニーズをつかむスペシャリストたちからの提言～
HP アドレス
<https://plaza.umin.ac.jp/houmonyamagata24/>

E-mail. kunugi5884@gmail.com

主 催
一般社団法人 日本訪問リハビリテーション協会
東京都千代田区神田紺屋町 14 千代田寿ビル 304 号室
電話/FAX 03-3255-3177

ごあいさつ

第 24 回日本訪問リハビリテーション協会学術大会 in 山形
大会長 藤井 浩美
(山形県立保健医療大学 教授)

このたび、第 24 回日本訪問リハビリテーション協会学術大会 in 山形(本会)の大会長を務めさせて頂く藤井浩美です。本会は、令和 6 年(2024 年)6 月 1 日(土)、2 日(日)の 2 日間にわたって、山形県立保健医療大学を会場に開催する運びとなりました。

近年、子どもから高齢者まで訪問リハビリテーションが重要性を増しております。本会は、全国の訪問リハビリテーションの実践や研究に携わっておられる医師、看護師、理学療法士、言語聴覚士、作業療法士に加えて、関連職種が参集する学術大会です。

本会は、これまでの訪問リハビリテーションのノウハウの蓄積をもとに、日本におけるさらなる発展を旨として、東北地方で初開催が決定いたしました。そこで、本会のテーマを「訪問リハビリテーションの未来」として、訪問リハビリテーションの実践や研究に携わっておられる方のみならず、関心を持たれる方々に多数ご参集頂き、実りある学術大会を目指します。

つきましては、本学会の趣旨にご理解を賜りまして、ご協力頂きますよう謹んでお願い申し上げます。

令和 5 年(2023 年)6 月吉日

第 24 回日本訪問リハビリテーション協会学術大会 in 山形
副大会長 竹中 佐江子
(日本訪問リハビリテーション協会理事・株式会社リニエ R 取締役)

このたび、第 24 回日本訪問リハビリテーション協会学術大会 in 山形の副大会長を務めさせて頂きたく竹中佐江子と申します。地域では、障害を持ちながら成長していく子ども達、精神の病を抱えながらも自立生活を目指す人々、住み慣れたご自宅で最期を迎える方々・・・人の数だけその人らしい暮らし方があります。超高齢化、少子化が加速するなか、訪問リハビリテーションの在り方、訪問療法士に求められる役割は変化しています。本会では、在宅生活の延長にどのような支援の形があるか、新たな訪問リハビリテーションの形について、地域ニーズをいち早く掴むことができる訪問療法士からの提言をもとに、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などの医療専門職のみならず、地域リハビリテーションを共に体現できる多職種と学ぶことができる学術大会になれば幸いです。

また、当大会が開催される 2024 年度は診療報酬・介護報酬・障害福祉サービス等のトリプル改定が行われます。新たにスタートする制度のもとで、医療・介護のみならず、福祉、教育等の動向にも目を向け、地域共生社会の実現に向けて訪問リハビリテーションに期待されること、訪問リハビリテーションの未来を考えていきたいと思っております。

本大会の主旨を理解いただき、ご助力を頂きますよう謹んでお願い申し上げます。

令和 5 年(2023 年)6 月吉日

学 会 概 要

会 期：令和 6 年（2024 年）6 月 1 日（土）、2 日（日）

会 場：山形県立保健医療大学（山形県山形市上柳 260）

テーマ：「訪問リハビリテーションの未来～地域ニーズをつかむスペシャリストたちからの提言～」

企画 1：協会長講演

「訪問リハビリテーションの未来を考える」宮田昌司先生

日本訪問リハビリテーション協会 会長

企画 2：特別講演 1

「訪問リハビリテーションの未来（仮題）」二川一男先生

日本ヘルスケア総合研究所 上席研究員（元厚生労働省事務次官）

企画 3：特別講演

「地域の中での訪問リハビリテーションへの期待（仮題）」川越 雅弘先生

埼玉県立大学大学院研究科/研究開発センター 教授

企画 4：シンポジウム：「訪問リハビリテーションの未来を考える」

座長 竹中 佐江子先生（株式会社 リニエ R）

理学療法士の立場から 佐藤 健三先生（社会福祉法人近森会）

言語聴覚士の立場から 村瀬 文康先生（株式会社ジェネラス）

作業療法士の立場から 竹中 佐江子先生（株式会社 リニエ R）

企画 5：演題発表：最大 162 演題

参加者：医師、看護師、理学療法士、言語聴覚士、作業療法士、その他

後援依頼先（予定）：厚生労働省、公益社団法人 日本医師会、一般社団法人 日本病院会、公益社団法人 日本リハビリテーション医学会、一般社団法人 日本老年医学会、一般社団法人 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会、一般社団法人 日本プライマリ・ケア連合学会、一般社団法人 日本リハビリテーション病院・施設協会、一般社団法人 回復期リハビリテーション病棟協会、公益社団法人 全国老人保健施設協会、一般社団法人 全国デイ・ケア協会、一般社団法人 日本慢性期医療協会、公益社団法人 日本看護協会、一般社団法人、全国訪問看護事業協会、公益財団法人 日本訪問看護財団、NPO 法人 日本リハビリテーション看護学会、一般社団法人 日本在宅医療連合学会、一般社団法人 日本在宅ケア学会、公益社団法人 全国国民健康保険診 全国在宅療養支援歯科診療所連絡会、一般社団法人 全国薬剤師・在宅療養支援

連絡会、全国地域リハビリテーション支援事業連絡協議会、全国地域リハビリテーション研究会、一般社団法人 全国在宅療養支援医協会、公益社団法人 日本理学療法士協会、一般社団法人 日本作業療法士協会、一般社団法人 日本言語聴覚士協会、一般社団法人 日本在宅栄養管理学会、公益社団法人 日本義肢装具士協会、一般社団法人 日本ケアマネジメント学会、特定非営利活動法人 全国在宅リハビリテーションを考える会、一般社団法人 日本脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会、特定非営利活動法人 日本ホスピス緩和ケア協会、特定非営利活動法人 日本ホスピス・在宅ケア研究会、日本在宅ホスピス協会、一般社団法人 日本福祉用具供給協会、一般社団法人 日本リハビリテーション工学協会、NPO 地域共生を支える医療・介護・市民ネットワーク、一般社団法人 日本災害リハビリテーション支援協会、公益社団法人 日本認知症グループホーム協会、一般社団法人 全国福祉用具専門相談員協会、一般社団法人 日本在宅ケアアライアンス、公益社団法人 日本介護福祉士会、一般社団法人「民間事業者の質を高める」全国介護事業者協議会、

山形県、山形市、一般社団法人 山形県医師会、一般社団法人 山形県歯科医師会、一般社団法人 山形県薬剤師会、公益社団法人 山形県看護協会、一般社団法人 山形県理学療法士会、一般社団法人 山形県作業療法士会、一般社団法人 山形県言語聴覚士会、一般社団法人 全国介護事業者協議会、NPO 法人 全国在宅リハビリテーションを考える会、一般社団法人 OT イノベーション機構あからん、山形県リハビリテーション専門職三団体連絡協議会、山形県ヘルスサポート協会、一般社団法人 山形県歯科衛生士会、社会福祉法人 山形県社会福祉協議会、一般社団法人 山形県ヘルスサポート協会、公益社団法人 山形県栄養士会、社会福祉法人 山形県身体障害者福祉協会、一般社団法人、山形県老人福祉施設協議会、一般社団法人 山形県介護福祉士会、一般社団法人 山形県社会福祉士会、山形県医療ソーシャルワーカー協会、山形県精神保健福祉士協会、山形県相談支援専門員協会、一般社団法人 地域包括支援センター等協議会、山形県地域包括ケア総合推進センター、社会福祉法人 山形県社会福祉事業団、山形リハビリテーション研究会、山形大学、山形県立保健医療大学、山形医療技術専門学校、山形県老人保健施設協会、山形放送、山形新聞、山形県内の関連施設、山形県を除く東北5県の理学療法・作業療法・言語聴覚士会

組 織 (常任委員会)

大会長	藤井 浩美	山形県立保健医療大学
副大会長	竹中 佐江子	株式会社 リニエ R
実行委員長	佐藤 寿晃	山形県立保健医療大学
副実行委員長	安川 裕次	株式会社 リニエ R
事務局長	鈴木 由美	山形県立保健医療大学
副事務局長	加勢 泰庸	株式会社 リニエ R リニエプ ラッツかみのやま
常任委員	小田 朝暉	同上
	赤塚 郁奈	株式会社 リニエ R リニエプ ラッツ山形
	佐藤可奈子	同上
	井上 香	山形県立保健医療大学
	川勝 祐貴	同上
	高畑 未樹	同上
	川田 智尋	医療法人 月山会 おやま整形 外科クリニック

組 織 (実行委員会)

日本訪問リハビリテー ション協会	佐藤 健三	大会企画部
日本訪問リハビリテー ション協会	矢嶋 俊一	大会企画部
山形県理学療法士会	岩井 章洋	会長
山形県作業療法士会	松木 信	会長
山形県言語聴覚士会	荒井 晋一	会長
山形県立保健医療大学	鈴木 克彦	理学療法学科長
山形県立保健医療大学	沼澤さとみ	看護学科長

特別講演は、60分、シンポジウムは、60分

一般演題発表は10分×6題(7分発表、質疑応答3分)

口述発表 6題×22セッション=最大132題

ポスター発表:6題×5セッション=最大30題

【学術大会事務局】

山形県立保健医療大学(〒990-2212 山形県山形市上柳260)

電話・ファックス:023-686-6652(鈴木由美研究室)

Email:kunugi5884@gmail.com

当初予算 収入の部

	単価	件数	小計
参加収入 (事前 会員のみのみ)	10,000	580	5,800,000
参加収入 (当日 会員のみのみ)	12,000	10	120,000
一日参加収入 (非会員のみのみ)	5,000	10	50,000
賛助収入	100,000	5	500,000
広告収入	20,000	20	400,000
ランチョンセミナー	800,000	1	800,000
学会補助金	500,000	1	500,000
合計			8,170,000

支出の部

	単価	件数	小計
設備費	2,750,000	1	2,750,000
送迎バス	45,000	20	900,000
ランチョンセミナー弁当代	1,000	600	600,000
HP 作成・管理	275,000	1	275,000
メール演題申込・管理	165,000	1	165,000
会員事前参加費・懇親会費管理	165	605	99,825
開催案内ポスター・チラシ	100	1,000	100,000
学術大会プログラム印刷代	500	1,000	500,000
プログラム集印刷費	500	750	375,000
川越雅弘氏の講演料	50,000	1	50,000
川越雅弘氏の旅費	50,000	1	50,000
二川一男氏の講演料	50,000	1	50,000
二川一男氏の旅費	50,000	1	50,000
ランチョンゼミナー講演料	50,000	1	50,000
ランチョンゼミナー講師の旅費	50,000	1	50,000
シンポジウム (3名)	20,000	3	60,000
講師・シンポジスト旅費	100,000	4	400,000
ネームカード	57	750	42,750
記念品	918	100	91,800
通信費	100,000	1	100,000
事務費	340,425	1	448,625
渉外費	5,000	10	50,000
運営人件費 (時給 1,000 円×8h×6 人×7 会場×2 日)	1,000	672	672,000
実行委員会運営費 (1,000 円×20 人×12 回)	1,000	240	240,000
			8,170,000

収支差額

0

2024/6/1(土)									
時間	受付	第1会場 講堂	第2会場 第1講義室	第3会場 第2講義室	第4会場 第3講義室	第5会場 音楽室	ポスター1 ロビー	ポスター2	書籍展示
10	受付	10:30開会式							
11		協会長講演	ノミネット セッション	6演題	6演題	6演題	6演題	6演題	
12									
13		ランチョン セミナー							
14		特別講演1							
15		特別講演2							
16									
17		調査報告	6演題	6演題	6演題	6演題	6演題	6演題	6演題
18									
19		レセプション							
20									

